

日野の歴史と民俗 133号 (詳細版)

日野町と七生村の合併

昭和28年(1953)10月1日、「町村合併促進法」が施行されました。この法律は、合併によって人口8,000人以下の町村を解消し、行政の効率化と財政の安定をはかろうとするもので、いわゆる「昭和の大合併」が行われました。この合併により全国に9,868あった市町村は、昭和31年末までに3,968市町村に減少しました。

現在の日野市域は、当時の南多摩郡日野町と同郡七生村に当たります。このとき、日野町と七生村に八王子市との合併話があったことをご存知でしょうか？

八王子市は大正6年(1917)に市制施行した、旧南多摩郡域では最大の都市です。東京都町村合併促進審議会は、八王子市を中心に、隣接する南多摩郡の日野町、七生村、由井村、横山村、浅川町、恩方村、元八王子村、川口村、加住村を合併するという計画案、いわゆる「大八王子」構想を打ち出しました。

日野町はこの合併案に反対しました。理由は、人口22,000人余の日野町は合併促進法の対象となる町ではないこと、「日野五社」を初めとする大工場もあって国の交付金も受けておらず、財政的にも独立していること、八王子市は戦災から復興の最中であり税金が高いこと、この計画に南多摩郡東部町村の意見があまり反映されていないこと、などを理由にあげています。日野町にとっての利点が提示されぬまま、八王子市を中心に語られる「大八王子」構想に、日野町が賛成できないのは無理からぬことでした。

一方、七生村は人口が6,000人以下で合併は避けられない状況にありました。問題はどこと合併するかで、一部には八王子市への編入を望む声もありましたが、おおむね八王子市との合併案には反対で、他の隣接町村との合併を模索していました。

昭和29年8月19日付で、東京都知事から各町村へ審議会の合併案についての諮問があり、日野町、七生村はそれぞれ八王子市への編入に反対、と回答しました。しかし、翌月公表された「東京都町村合併計画」は、相変わらず日野町と七生村を八王子市へ編入するという内容でした。その後、何度となく、八王子市と合併するようにとの勧告が行われましたが、日野町、七生村ともこれを拒否し続けました。

昭和31年2月16日付「毎日新聞」都下版には、「そっぽを向かれる八王子 日野町、七生村が合併にひじ鉄」、「貧乏市は真っ平」と過激な見出しがついています。記事の中に、日野町と七生村の両町村が単独で市制を計画する基礎となっているのは、日本住宅公団の豊田地区開発による人口増と都市整備であると指摘されています。公団の開発とは多摩平団地の建設をさしています。

町村合併促進法の失効を間近に控えた昭和31年9月、日野町と七生村の各議会は住民への世論調査の結果を元に、日野町と七生村の合併を決議しました。

昭和33年2月1日、日野町と七生村は合併し、新しい日野町が誕生しました。町役場は現在の生活・保健センターの場所におかれまして。そして次なる目標である市制施行を目指して、町の発展に力を入れていったのです。
(郷土資料館 矢口祥有里)

□■□■企画展「新聞記事で見る日野市のあゆみ50年—2011—」を開催します■□■□

会期 2011年7月16日～12月11日(月曜休館、月曜祝日の場合は開館し翌日休館)

会場 日野市郷土資料館企画展示室

入場無料。

昨年度行われた特別展「新聞記事で見る日野市のあゆみ50年—昭和編—」をさらに多くの方にご覧いただきたいと考え、開催いたします。新資料も展示します。

どうぞ高幡台までお越し下さい。(お問合せ 日野市郷土資料館 電話 042-592-0981)

